

人間関係学科臨床心理専攻 カリキュラム・マップ(2023年度入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(臨床心理)の学位を授与します。

①悩める人と向き合い、心の交流をとおして支援する他者理解のあり方の意義を理解できる(意欲)
 ②人間の可能性をとおして心の問題をとらえることができる(態度・意欲・思考)
 ③心のはたらきを多角的な視点から学ぶと共に、より高い視野のもと総合的に理解できる(思考・知識・技術)
 ④自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深めることができる(創造・思考)
 ⑤心理学の探究に主体的に取り組むことができる(態度)

| 科目名 | 授業形態 | 配当年次 | 単位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | |
|-------------|------|-------|----|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 公認心理師の職責 | 講義 | 1・2 | 2 | 1. 公認心理師の役割について 2. 公認心理師の法的義務と倫理意識 3. 心理に関する支援を要する人びとについて 4. 守秘義務及び多職種従事者との情報共有 5. 保健医療、福祉、教育、他関連分野との連携 | 公認心理師の役割、法的義務を理解し、必要な倫理を身につけると共に、心理に関する支援を要する人びとの安全を最優先し、常にその人を中心とした立場に立てる。守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に扱える。保健医療、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 心理学研究法 | 演習 | 2 | 4 | 1. 心理尺度の目的 2. 心理尺度の信頼性と妥当性 3. 項目作成方法 4. 項目分析 5. 結果の統計処理 | 心理学における実証的研究法について概説できると共に、心理学で用いられる統計手法について概説できる。統計に関する基礎的内容について理解し、質問紙を作成し、得られたデータに基づき実証的に考えることができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 心理学統計法 | 講義 | 2 | 2 | 1. 心理学で用いられる統計手法 2. 統計に関する基礎的な知識 | 有意差といった統計学の基礎的な考え方を理解し、心理統計について基本的な手法を使用できるようにする。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 多変量解析法 | 講義 | 4 | 2 | 1. 多変量解析の目的 2. 重回帰分析 3. 主成分分析・因子分析 4. クラスター分析 5. 共分散構造分析 | 心理統計のうち、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析をはじめとする多変量解析のための統計手法を理解し使用できるようになる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 心理学実験法 | 演習 | 2 | 4 | 1. 心理実験の計画立案 2. 統計に関する基礎的な知識 3. データの処理方法(分散分析など) | 心理学における実験計画法を理解し、自ら立案できるようになる。さらに、それらに伴う心理統計についても理解できるようになる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 知覚・認知心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 知覚心理学・感覚心理学・認知心理学の発展の歴史 2. 人間の感覚・知覚の機序および障害 3. 人の認知・思考等の機序及びその障害 | 知覚心理学・感覚心理学・認知心理学の知見に基づいた人間の感覚・知覚等の機序及びその障害、ならびに人間の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 学習・言語心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 人間の経験:短期記憶と作業記憶 2. 言語習得の機序 3. 行動・態度の変容と知識表象および言語理解との連関 4. 思考について | 人間が経験を通して、その行動が変化する過程を説明できる。言語の習得における機序について概説できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 感情・人格心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 人格心理学の歴史および感情概念の変遷 2. 現代における人格概念および人格形成過程 3. 現代における感情理論及び感情喚起の機序 4. 現代における行動理論における感情概念 5. 類型論をはじめとする人格特性論の概観 6. 力動論をはじめとする心理療法と1.~5.の関連 | 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。感情が行動に及ぼす影響について概説できる。人格の概念及び形成過程について概説できる。人格の類型、特性等について概説できる。そのうえで心理療法について概説できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 神経・生理心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 脳神経系の構造及び機能 2. 記憶、感情等の生理学的反応の機序 3. 高次脳機能障害の概要 | 心理現象の基礎となる脳神経系の構造と機能が概説できる。また、高次脳機能障害及び必要な支援について理解できるようになる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 社会・集団・家族心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 家族と自己 2. 社会的認知 3. コミュニケーション 4. 対人認知 5. 文化と家族、集団、個人との関係の多層性 | 対人関係並びに集団における人の意識と行動に関わる心の過程を説明できる。人の態度と行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 発達心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 認知機能の発達及び感情・社会性の発達 2. 自己と他者の関係の在り方と心理的発達 3. 誕生から死に至るまでの生涯における発達 4. 発達障害等非定型発達の基礎知識及び考え方 5. 高齢者の心理 | 認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達について。誕生から死に至るまで生涯にわたる発達及び各発達段階での課題と特徴について。また高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できるようになる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 障害者・障害児心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要 2. 障害者(児)の心理社会的課題及び必要な支援 | 心身障害への理解を深め、障害者(児)心理学の知見を学ぶことにより、身体障害、精神障害、発達障害に関連する心理と支援について理解できるようになる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| 心理的アセスメント1 | 演習 | 2 | 4 | 1. 心理的アセスメントの目的及び倫理 2. 知能検査(ビネー式、ウェクスラー法) 3. 発達検査(K式、K-ABC) 4. 高次脳機能障害のための検査 | 心理アセスメントを実施するうえで必要とされる倫理を学び、知能検査や発達検査について実習することで、基礎的な心理アセスメントへの実践力を身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 心理的アセスメント2 | 演習 | 2 | 4 | 1. 作業検査 2. 質問紙検査(YG性格検査、MMPIなど) 3. 初歩的な投影法(SCT, PF-study) | 作業検査や代表的な質問紙検査、簡単な投影法について、その実施目的と実施方法、解釈方法の具体について理解する。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 心理学的支援法 | 講義 | 3・4 | 2 | 1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用 2. 訪問支援や地域支援の現状と意義 3. 心理支援を要する人の特性と支援方法の多様性 4. 専門的支援におけるコミュニケーションのあり方 5. 心理療法やカウンセリングの可能性と限界 6. 心理支援におけるプライバシー配慮の意味 | 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義とそれらの適用、訪問支援や地域支援の意義について概説できる。心理支援を要する人の特性を理解し、状況に応じて適切な支援方法を選択・調整できる。心理支援における良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。心理療法やカウンセリングの適用の可能性と限界を説明できる。また、心理支援におけるプライバシー配慮の意義を理解し配慮できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |

| 次のような知識や能力を備えた学生に学士(臨床心理)の学位を授与します。 ①悩める人と向き合い、心の交流をとおして支援する他者理解のあり方の意義を理解できる(意欲) ②人間の可能性をとおして心の問題をとらえることができる(態度・意欲・思考) ③心のはたらきを多角的な視点から学ぶと共に、より高い視野のもと総合的に理解できる(思考・知識・技術) ④自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深めることができる(創造・思考) ⑤心理学の探究に主体的に取り組むことができる(態度) | | | | | | | | | | |
|--|------|-------|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 授業形態 | 配当年次 | 単 位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | |
| | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 健康・医療心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. ストレスと心身の疾病の関係 2. 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法 3. 多様な保健活動において必要な心理に関する支援 4. 災害時等に必要な心理に関する支援 | ストレスと心身の疾病関係について概説できると共に、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法、多様な保健活動において必要な心理に関する支援、そして災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 福祉心理学 | 講義 | 3・4 | 2 | 1. 福祉現場において生じる問題及びその背景 2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法 3. 虐待、認知症に関する必要な支援方法 | 福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法、さらに虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 教育・学校心理学 | 講義 | 3・4 | 2 | 1. 教育現場において生じる問題及びその背景 2. 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法 | 教育現場において生じる問題及びその背景、ならびに教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 司法・犯罪心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 2. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 | 犯罪や非行の事象を理解し、加害者と被害者の心理に関する知見を学ぶことにより、司法領域における心理的支援について理解できるようになる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 産業・組織心理学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 職場における問題に対して必要な心理に関する支援とその方法 2. 組織における人の行動 | 職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について説明できると共に、組織における人の行動について概説できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 人体の構造と機能及び疾病 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害 2. 心理に関する支援が必要な主な疾病 | 心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害、および心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 精神疾患とその治療1 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 精神疾患総論(代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。) 2. 向精神薬をはじめ諸薬剤による心身の変化とその機序 3. 医療機関との連携 | 心理的援助を実践する上で必要不可欠な精神医学の知見を学ぶことで、精神科医と連携する技能、精神科領域で活躍できる能力を身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 精神疾患とその治療2 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 1. 統合失調症 2. 気分障害 3. 人格障害 4. 神経症睡眠と抑うつ気分、うつ状態 5. 発達障害 | 「精神疾患とその治療1」の教授内容を踏まえて、精神医学・精神病理学について各論的に講義する。精神科領域で活躍するのに必要な精神医学の各論的知見を学ぶことで、精神病理とその医学的・心理学的支援についての理解できるようになる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 関係行政論 | 講義 | 3・4 | 2 | 1. 保健医療分野関連の法律、制度 2. 福祉分野関連の法律、制度 3. 教育分野関連の法律、制度 4. 司法・犯罪分野関連の法律、制度 5. 産業・労働分野関連の法律、制度 | 保健医療分野・福祉分野・教育分野・司法・犯罪分野及び産業・労働分野、これら心理支援に関わりの深い5分野に関連のある法律、制度について概説できる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 精神分析学 | 講義 | 3・4 | 2 | 1. 精神分析の歴史 2. 精神分析の各学派 3. 精神分析の実践 4. 精神分析の応用 | 古典的な欲動論、自我心理学、クライ学派、対象関係論、自己心理学、間主観学派の各理論を理解し、心理療法におけるクライエント理解の視点や介入手法について、理解できるようになる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ユング心理学 | 講義 | 3・4 | 2 | 1. ユング心理学の歴史 2. ユング心理学の各学派 3. ユング心理学の実践 4. ユング心理学の応用 | ユング心理学(分析心理学)の成立と展開、そして精神分析と対比させながら主要概念とその意義を理解し、芸術表現療法等に代表される臨床観を概説できるようにすると共に、臨床感覚に開かれていけるようになる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 投影法演習 | 演習 | 3・4 | 4 | 1. 言語連想法 2. TAT 3. 描画法(バウムテスト・風景構成法) 4. ロールシャッハテスト 5. 心理アセスメントの所見の書き方 | 言語連想法、TAT、描画法、ロールシャッハテストについて実習することで心理アセスメントのさらなる実践力を身につける。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 心理演習 | 演習 | 3・4 | 2 | 次に掲げる心理支援に不可欠な事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行う。 (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得: (1) コミュニケーション、(2) 心理面接、(3) 地域支援、等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチの場面想定 (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解 | 心理実践にあたるうえで必要とされる具体的な知識や技能を身につける。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 心理実習 | 実習 | 4 | 2 | 見学等による実習を行うなかで、以下について実習先施設の実習指導者又は担当 教員による指導を受ける。 (ア) 要支援者へのチームアプローチ (イ) 多職種連携および地域連携 (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 | 心理に関する支援を要する人に対して、実際に面接や検査を実施することを通じて、心理状態に問及しながらの観察及び分析、並びに必要な支援を行うための基礎知識や技能を身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 臨床心理学入門演習 | 演習 | 1 | 2 | 臨床心理学の歴史や主だった知見を概説すると共に、臨床心理学の各領域の特徴的テーマについて、知見を広げつつ、各自が関心を抱くテーマについて理解を深め、興味あるテーマを設定して、演習形式で学習する。 | 1. 入門書を読解できる。 2. 文献を要約して提示できる。 3. 専門書を読解できる。 4. 特定の主題に関する議論に参加し貢献できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

| ディプロマ・ポリシー 次のような知識や能力を備えた学生に学士(臨床心理)の学位を授与します。 ①悩める人と向き合い、心の交流をとおして支援する他者理解のあり方の意義を理解できる(意欲) ②人間の可能性をとおして心の問題をとらえることができる(態度・意欲・思考) ③心のはたらきを多角的な視点から学ぶと共に、より高い視野のもと総合的に理解できる(思考・知識・技術) ④自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深めることができる(創造・思考) ⑤心理学の探究に主体的に取り組むことができる(態度) | | | | | | | | | | |
|--|----------|----------|--------|---|--|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 授業 形態 | 配当 年次 | 単 位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | |
| | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 臨床心理学課題演習 | 演習 | 3 | 2 | 1. 臨床心理学における諸理論 2. 研究論文の読解 3. 各自の研究テーマの明確化 | 臨床心理学における各論を深く学び、各人の研究上の問題意識を明確にしていくことを通して、4回生の卒業課題研究につながる道筋をみいだす。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 臨床心理学研究演習1 | 演習 | 4 | 2 | 4年間の学習成果を集大成する研究活動である。先行研究を踏まえながら、各自の関心に沿った問題設定をし、それに見合った手法でデータを得て、学術的論文を作成する。 | 1. 先行研究の文献調査ができる 2. 心理学の研究手法を修得する 3. 得られたデータを処理できる 4. データの解釈ができる 5. 論文を執筆できる | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 臨床心理学研究演習2 | 演習 | 4 | 2 | 「臨床心理学研究演習1」において修得したことをさらに発展させて、指導教員の助言のもと、卒業課題研究を作成する。 | 1. 学術論文を読解できる。 2. 文献を要約して提示できる。 3. 関心のある主題に関する文献研究や調査ができる。 4. 特定の主題に関する議論に参加し貢献できる。 5. 関心のある主題に関して独自の意見を形成できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 卒業課題研究 | | 4 | 4 | 4年間の学習成果を集大成する研究活動である。設定したテーマに関する先行研究を踏まえながら、各自の関心に沿った問題設定をし、それに見合った手法でデータを得て、学術的論文を作成する。 | 1. 先行研究の文献調査ができる 2. 心理学の研究手法を修得する 3. 得られたデータを処理できる 4. データの解釈ができる 5. 論文を執筆できる | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |